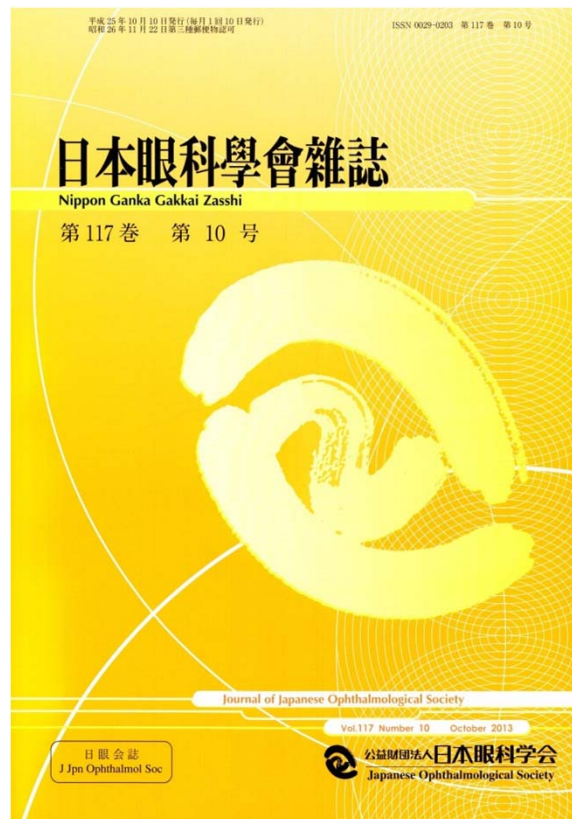


日眼会誌2013年，第117巻，第10号，外国誌要覧，P839



マウス光誘発網膜障害モデルにおける ヘパリン結合性上皮成長因子様増殖因子の関与

井上雄有輝[☆]， 鶴間 一寛， 中西 智洋， 大八木 篤
大野 雄太， 大塚 智裕， 嶋澤 雅光， 原 英彰
(岐阜薬科大学薬効解析学研究室)



☆ 井上雄有輝

光誘発網膜障害モデルは，視細胞変性のモデルとして広く用いられている．視細胞の変性疾患には現在のところ有効な治療薬はなく，治療標的の発見ならびに治療薬の開発が望まれている．ヘパリン結合性上皮成長因子様増殖因子(HB-EGF)は，多くの中枢神経細胞において保護効果を有することが知られているが，網膜におけるその機能は明らかにされていない．本研究では，HB-EGFの網膜における役割を検討するため，光曝露による網膜障害にHB-EGFの関与と，さらにHB-EGFを投与することでその治療ターゲットとしての可能性について *in vivo* および *in vitro* において検討した．その結果，光障害に伴ってHB-EGFの発現量が mRNA および蛋白質レベル

で増加した．さらに，HB-EGFの欠損により視機能の低下および視細胞の萎縮が増悪した．一方，HB-EGFの処置により，光照射による視機能の低下および視細胞の萎縮が抑制された．以上より，HB-EGFは網膜視細胞変性疾患に関与し，その新規治療ターゲットとして期待できる．

原著論文

Role of heparin-binding epidermal growth factor-like growth factor in light-induced photoreceptor degeneration in mouse retina. Invest Ophthalmol Vis Sci 54 : 3815-3829, 2013.